

ハ〜イ!

青いそら

2025年正月号

<病院理念> 患者さん中心の人にやさしい良質の医療を提供します



P.3~7

特集 認定看護師

専門外来のご紹介

人工肛門 ストーマケア外来
助産師外来 外来妊婦相談室

年頭のご挨拶	2
マイナ保険証と電子処方せん・俳句コーナー	8
外来患者さんアンケート結果のご報告	9
外来診療担当医表	10
栄養メニュー・地域連携室だより	12

2025年1月



中国中央病院HP



中国中央病院
卒後臨床研修サイト



表紙の写真を募集しています
詳しくは8ページへ

年頭のご挨拶

げんば けんいち
病院長 玄馬 顕一



明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願ひ致します。2025年の年頭にあたりご挨拶を申し上げます。

2020年にパンデミックを起こした新型コロナウイルス感染症は、未だに終息していないものの社会生活は流行前に回帰しています。当院でも院内での感染対策を継続しつつ、4年以上に渡り禁止していた入院中の患者さんと家族との面会を条件付きではありますが11月から再開しました。一方、新型コロナウイルス感染症に対する感染対策や罹患した患者さんを受け入れること等に対して交付されていた補助金が打ち切られたことや物価上昇等の影響で、多くの医療機関で経営状態が悪化しています。当院においても病院経営の改善に向けて病床稼働率の改善や費用削減等の取り組みを2024年4月から開始し、一定の成果を上げることができています。

さて、中国中央病院は地域医療支援病院として、これまで通り福山・府中二次医療圏の主として北部地域の急性期医療を担当し、地域の診療所の先生からのご依頼は勿論のこと、救急患者・重症患者さんを積極的にお引き受けしたいと考えています。救急車による搬送件数は年々増加しており、地域の救急医療において一定の貢献ができていると考えています。2024年4月から始まった「医師の働き方改革」による医師の時間外労働時間の規制と救急医療、特に夜間・休日の救急搬送患者の受け入れは相反する課題であり、救急医療を更に充実する方策を模索しております。当院では地域にお住いの皆様や医療機関のご要望に十分にお応えできる専門的な医療・看護の提供を目指しており、職員一丸となって努力していきたくと考えています。

医師確保に関して、昨年は産婦人科医師1名と消化器外科医師を1名増員することができました。また、本年も昨年に続き初期研修医を4名採用することになりましたので、若い医師が増えて活気のある医局になると期待しております。

診療に関して昨年のTopicとして、まず手術支援ロボットであるSaroaの導入が挙げられます。呼吸器内科、呼吸器外科、放射線科が協力して肺癌、胸膜中皮腫など種々の呼吸器腫瘍に対する集学的治療を行うとともに、COPD・間質性肺炎・気管支喘息・肺結核などあらゆる呼吸器疾患に対する専門的な診療を行っておりますが、4月にSaroaが稼働してから11月までの肺癌手術件数は56件と前年度に比べ75%増加しております。

また、血液内科では白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫などの造血器腫瘍に対する強力な化学療法・抗体療法は勿論のこと、無菌室を用いた造血幹細胞移植などを主体に、あらゆる血液疾患の診療を行っております。血液疾患、呼吸器疾患に関しては、広島県東部地域では最も充実した医療が提供できていると自負しております。

更に、当院では周産期医療にも力を入れております。分娩に対応できる医療機関が年々減少し、福山市北部地域で唯一となっておりますが、当院では分娩を安全に実施するとともに、地域の皆様から信頼される産婦人科医療と専門医療人の育成を図っております。

その他、糖尿病・腎疾患・膠原病の診療、消化器疾患に対する内視鏡を用いた診断・治療、整形外科領域等多面的な診療についても更に充実させたいと考えております。

私ども中国中央病院では、スタッフの健康を守ることに最大限の努力をしようと考えています。安全で安心できる医療の提供には健全で安心できる医療の体制が不可欠と考えているからです。最近では特に感染症に対するスタッフの健康管理を徹底すると共に、院内の医療環境にも配慮してストレスコントロールできる病院作りを目指しております。

最後になりますが、当院の理念は「患者さん中心の人にやさしい良質の医療の提供」です。様々な職種のスタッフが仲良くチームを組んで、患者さんに心のこもった医療・看護を提供し、患者さんにご家族の皆様に「中国中央病院に来て良かった！」と感じていただけるよう、本年も全職員が一丸となって邁進する所存ですので、これまでと変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

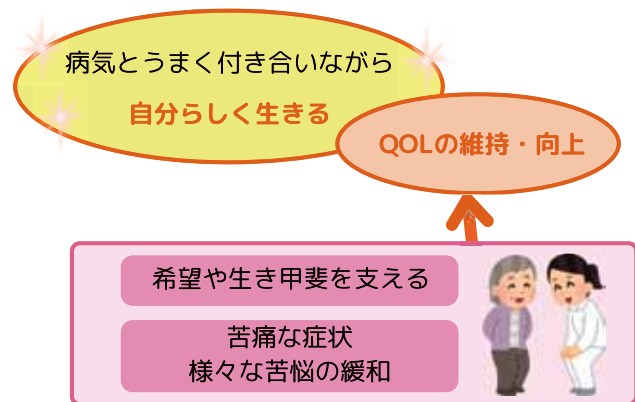
2025年 元旦

緩和ケア認定看護師

田原由季

緩和ケアとは、疾患をもつ患者さんやご家族に対して、がんと診断された時から、病気や治療に伴う身体や気持ちのつらさ、生活でのお困り事について支援を行うことです。その人らしく過ごしていけるように支えること、QOL(生活や人生の質)を維持し、向上させることを目指します。

緩和ケア認定看護師には、病気や治療に伴う身体的な苦痛や、精神的、社会的、霊的苦痛をアセスメント(客観的に評価や分析)し、その人に適したケアが提供できるよう調整する役割があります。また、緩和ケアに携わるスタッフの指導や勉強会を通して、ケアの質が向上していくように院内での教育も担っています。



※緩和ケア提供のイメージ

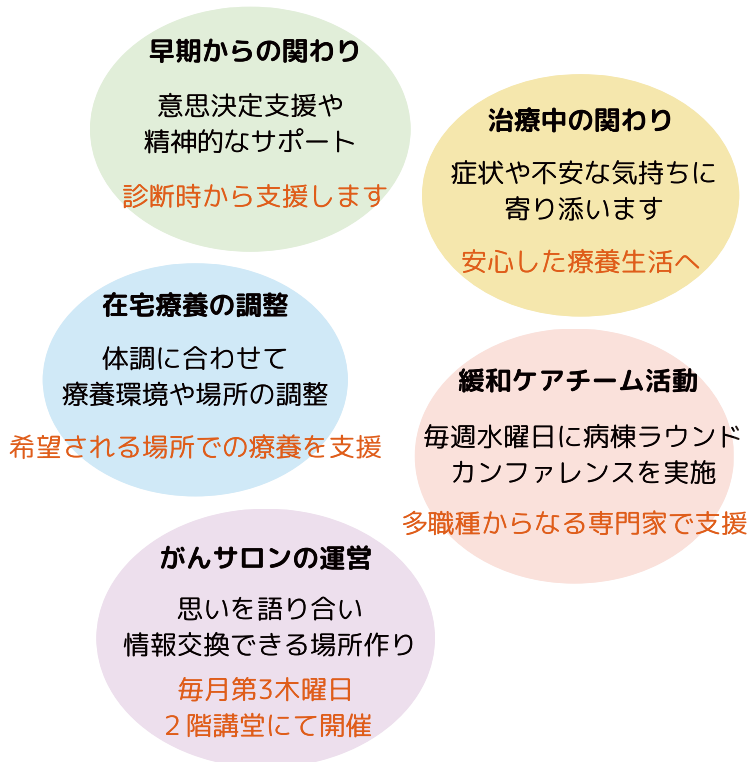
目指したきっかけ

私が看護師3年目の頃、がん患者さんを担当した際に、「十分に対応できたのだろうか」「もっとできることがあったのではないかな」という自責の念や自分の知識や技術不足を感じました。そして、このままではいけないと思うようになり、より専門的な知識と技術を習得するために、緩和ケア認定看護師を目指しました。また、家族を看取った経験も自身の看護観に大きく影響を与えたと思います。緩和ケア認定看護師となり、自分の考えに固執することなく、いろいろな視点から看護を捉えられるようになったのではないかと感じています。

大切にしていること

緩和ケア認定看護師として大切にしていることは、患者さんやご家族との「対話」です。それぞれに価値観や死生観、そして生きてきた人生があります。対話を通して相手の考えや思いを受け止め理解することは、その人らしく過ごすことを支援する第一歩だと考えています。また、その人らしく過ごすことを支えるには、薬剤師や管理栄養士、ソーシャルワーカーなど、多職種での連携が重要であるため、患者さんとの調整役(黒子)となることを常に心がけています。

患者さんひとりひとりのために



緩和ケアについて考えるタイミングは、早すぎることも遅すぎることもありません。患者さんやご家族が「困ったとき」がタイミングです。抱えておられる身体や気持ちのつらさ、生活での困りごとなどについて、お話をしてみませんか? 日々の出合いを大切にしながら、抱えているつらさが軽くなるよう、そしてご希望に添えられるように共に考えていけたらと思っています。

がんで痛みを抱える患者さんやご家族の苦痛を緩和するために、痛みの状態を確認・評価し、痛みの治療(鎮痛剤の使い方や副作用対策)や痛みを増強させない生活上の工夫などのアドバイスをしています。また、気持ちの落ち込みや不安が続く方には、面談を行い精神的なサポートも行います。

意思決定をする際に支援します

がんと診断された患者さんに、医師が病状説明や病名の告知、治療方針の説明を行う際に同席します。患者さんにご家族が十分に理解し納得した上で治療の選択ができるよう意思決定支援を行っています。

病気や治療についての思いや、気がかりなことをお聞きして、質問にお答えします。生活の中で大切にしていること、お一人お一人の価値観を確認しながら、患者さんやご家族の気持ちに寄り添った支援を行えるよう心がけています。

放射線治療での役割

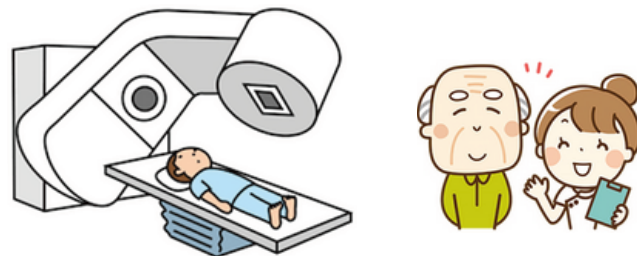
現在、私は放射線治療室で勤務していますので、そこでの看護についてご紹介します。

放射線療法目的は、根治・再発予防・症状緩和まで幅広く、様々なステージ(がんの進行度)の患者さんが対象です。放射線治療室には、痛みを抱えているがん患者さんが多く来られます。

放射線治療を行う場合、治療台の上に最低10分程度は動かず上向きに寝ることが必要です。そのため、まずは患者さんに苦痛の少ない体勢を確認し調整することから始まります。痛みが強く治療台に寝られない場合は、医師と相談し鎮痛剤開始の時期や、薬の効果の確認、治療時間に合わせた内服のタイミングを検討します。

放射線治療と聞くと怖い治療と感じる患者さんやご家族も多くおられますが、放射線治療について正しい情報を知っていただき、安心して治療を開始し最後まで継続できるよう、サポートすることががん性疼痛看護認定看護師の役割です。

治療開始後は、有害事象(赤みや痒みを伴う皮膚炎や粘膜炎など)への対応を行います。症状は、治療開始から2週間程度で出始め治療後半にピークとなります。治療終了後にはゆっくりと改善していきます。



放射線治療は、速効性はありませんが、決められた日数で毎日少しずつ放射線をあてることで効果が大きくなります。長い治療をやり遂げることは、身体的・精神的に辛いものです。そのため、患者さんの体調や日常生活に問題が出ていないか確認し、最後まで治療が行えるよう日々サポートします。

毎日お会いする中で、治療に対する気持ちや体調の変化をお聞きし、放射線治療医や放射線技師と協力して、温かく穏やかな雰囲気で行えるよう努めています。

放射線治療を受けている患者さんへ

がん性疼痛看護認定看護師として、患者さんが「毎日治療に行こう」「治療を最後までやり遂げよう」という気持ちに繋げられるように日々看護を行っています。不安や気がかりなことがあればいつでもご相談ください。

治療を行った部位を洗う時は、石鹸を十分に泡立てて、ゴシゴシ擦らないように洗いましょう。

泡はしっかり流して、タオルで押さえるように拭きましょう。





🌿 輸血レターでみんなに伝えたい…

輸血は、白血病などの血液の病気や、抗がん剤などの薬の副作用により赤血球や血小板が作られない時や、手術で大量に出血した時に必要です。

輸血用血液製剤は、無償のボランティアとして献血していただいた方の献血血液からつくられています。近年、若年層の「献血離れ」が続き、このままでは将来の安定供給に支障をきたす恐れがあります。そこで、実際に献血を体験し、院内の輸血レターで職員に献血を呼びかけました。

また、血液内科病棟では多くの輸血を実施するため、輸血を受けた患者さんへの説明用に「輸血についての説明動画」を作成し、輸血レターでお知らせしました。

輸血は移植の一種と考えられているように、様々な副作用や合併症を引き起こすことがあります。安全な輸血治療を行うためには、正しい知識と的確な輸血看護が求められます。そこで、日本輸血・細胞治療学会は、輸血の安全性の向上に寄与することのできる看護師の育成を目的として、学会認定・臨床輸血看護師制度を導入しました。当院には、この臨床輸血看護師が3名在籍しています。

🌿 安全な輸血治療を提供します

私たち臨床輸血看護師は、安全に輸血を行うために輸血安全管理マニュアルの修正や院内研修会を定期的に開催しています。また、院内スタッフへ情報を提供する輸血レターの発行や、各部署での輸血手技確認等を行っています。



臨床輸血看護師同士で定期的に話し合います



各部署をラウンドし
チェック表に沿って輸血手技を確認します

手作りの
院内向け情報誌

これからも、安全な輸血看護を提供できるように活動していきたいと思えます。

当院では

特定行為実践看護師

が活動しています！

よしとも
片山善友



抗菌薬が効かない薬剤耐性菌

抗菌薬も、長期間使い続けたり量が少なかったりすると、細菌が抗菌薬に慣れてしまい、抗菌薬が効かない薬剤耐性菌が発現することがあります。

薬剤耐性菌が発現すると治療に時間がかかったり、重症疾患の原因となったり、治療を受ける患者さんは心身ともに負担が大きくなります。

抗菌薬には、幅広い細菌に効果がある広域抗菌薬と、特定の細菌にのみ効果がある狭域抗菌薬があります。薬剤耐性菌のなかには、この広域抗菌薬に耐性があるものも現れて、使用できる抗菌薬が限られてしまうこともあり、世界中で問題となっています。

また、薬剤耐性菌はヒトとヒトの接触を介して伝播することもあります。薬剤耐性菌の伝播予防として重要なことは手指衛生です。院内の感染予防対策も私の重要な仕事の一つです。

特定行為とは

特定行為とは、看護師が行う診療の補助のことで、実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能が特に必要とされるもので、38行為あります。

特定行為研修を受講した看護師は、手順書(医師・歯科医師が看護師に診療の補助を行わせる内容を指示したもの)に基づき、研修した内容のみを医師の指示のもと、安全に実施しています。タイムリーに患者さんの対応ができ、医師の業務負担の軽減にもつながっています。

私ができる特定行為

感染徴候がある患者さんに対する 薬剤の臨時の投与

検査結果に異常があるかどうかや、感染徴候があるかを確認し、感染臓器と原因となっている病原性微生物が推定できている場合に、医師の指示の下、患者さんに投与する薬剤を選択します。

薬のはなし

抗生物質などの抗菌薬は、大腸菌や肺炎球菌などの細菌には効果がありますが、インフルエンザウイルスなどのウイルスには効果がありません。いわゆる風邪はウイルスが原因で、抗菌薬を内服しても効かないのです。

薬は、患者さんの症状や検査の結果から、どこに起きている感染症なのか、原因となっている病原性微生物を判断して処方されています。適切な薬剤を投与すると早く症状が改善したり、重症化を防ぐことができます。服用方法をよく確認して正しく服用しましょう。



適切に抗菌薬を使うことが重要

当院には、抗菌薬適正支援チーム(AST)があります。ASTでは、患者さんの情報をもとに、抗菌薬の変更や感染源特定のための検査を提案しています。

広域抗菌薬から狭域抗菌薬へ変更することをデ・エスカレーションといいます。こうすることで、感染症の症状が早期に改善し、新たな薬剤耐性菌の発現抑制にも効果があります。そのため、入院期間が短くなり、医療コストを削減できます。

多職種からの情報をもとに、ASTを通じて抗菌薬の変更が提案されています。引き続き、新たな薬剤耐性菌の発現を抑止できるよう活動を続けていきます。



ストーマケア外来

ストーマケア外来とは、ストーマ(人工肛門)を造設した患者さんの皮膚トラブルや、日頃のケアに対する指導、これからストーマを造設される患者さんができる限り快適な日常生活が送れるようにサポートするところです。

手術によって人工肛門を造るかもしれない、また人工肛門を造るけど、どのようなものか分からないという方に、ストーマについて分かりやすく説明しています。

仕事や趣味に影響しないか、旅行、入浴の際はどうかしたらいいかなど、個別にご相談にのり、装具の実物を使ってご説明します。例えば、趣味で着物を着られる方、ゴルフをする方など、手術する前と同様の生活が送れるようにアドバイスを行います。また、退院後に装具交換について不安がある方のために、皮膚・排泄ケア認定看護師が、退院後5回程度ご自宅に訪問して一緒に装具交換を行っています。

ストーマ外来で一番多い相談内容は、「ストーマ周囲の皮膚トラブル」です。

装具から排泄物が漏れていないか、ストーマ周囲のお腹にしわ、くぼみができていないか、装具の正しい交換ができていないかなどを確認し、皮膚トラブルの原因を一緒に考えてみましょう。また、新しい装具の情報、患者会(ストーマ保有者の会)の紹介なども行っています。日常生活の上で困っていること、どんな些細なことでもご相談ください。

【日 時】 毎週木曜日 9:00～12:00

【予 約】 1階 外科外来にてご予約ください
完全予約制です

詳しくは、ホームページをご覧ください。



助産師外来

「妊婦が産み育てる力を身につけ、安心して楽しい妊娠・分娩・産褥期を過ごせる」ことを目指し、助産師が妊婦健診および保健指導を行っています。

お母さんは元々「産む力」を、赤ちゃんは「生まれる力」を持っています。それを引き出すためには、お母さんが自分自身の身体や心を理解し、赤ちゃんと向き合いながら出産育児に対して前向きになることが大切です。前向きな気持ちは、食生活・運動・休息といった日々の積み重ねからつくられていきます。

助産師外来では一人30分の時間を設け個別の指導を行っています。超音波検査では、タイミングが合えば、赤ちゃんの顔や手足を動かす様子、指を吸うしぐさを見ることが出来ます。助産師とともにお産や産後の育児について一緒に考えていきましょう。

助産師外来を受診して下さった妊婦さんからは「いろんな話をゆっくり聞いてもらえるのでよかった」「助産師外来のたびにがんばろうと思えた」などの声をいただいています。

助産師外来の他にも、医師の妊婦健診後に助産師による外来妊婦相談室を行っています。小さいことでも疑問や不安、出産に対する思いなどがありましたら助産師にお気軽にお話ください。

助産師外来の対象となる方は、初期の「妊娠リスク自己評価表」が3点以下で正常に経過している妊婦さんです。興味がある方は妊婦健診時に外来妊婦相談室へお尋ねください。

 助産師外来

【日 時】 月・火・木・金 14:00～14:30

 外来妊婦相談室

【日 時】 月曜日～金曜日 10:00～12:00

【予 約】 2階産婦人科外来にてご予約ください
完全予約制です



国が推進する医療DX

医事課

国が推進する医療DXについて、当院ではマイナンバーカードを健康保険証として利用するオンライン資格確認、電子処方箋の導入に取り組んでいます。

今回は、それらを利用するメリットについてご紹介いたします。

マイナンバーカードを健康保険証として利用するメリット

- 就職・転職・転居をしても健康保険証としてずっと使える
- 高額療養費の限度額を超える支払いが手続きなしで免除される
- マイナポータルで特定健診情報や薬剤情報・医療費を確認できる
- マイナポータルで確定申告の医療費控除が簡単にできる

電子処方箋を利用するメリット

- 他の医療機関・薬局にもお薬の情報を共有できる
- 効能が同じお薬のもらいすぎを防ぎ、お薬の費用も抑えられる
- マイナポータルでお薬の情報をリアルタイムに自分で確認できる
(例えば ▶▶ 市販薬を買う際に飲み合わせの確認に活用できる)



注意点



電子処方箋に未対応の薬局ではお薬をもらうことができません。

ご利用の場合には、必ず事前にお薬をもらう薬局が電子処方箋に対応しているかご確認ください。

ご利用方法については、お気軽に受付にお声がけください。

表紙の写真を募集しています



【郵送先】

720-0001

福山市御幸町大字上岩成148番13

公立学校共済組合中国中央病院 庶務課

- 撮影者名(ニックネーム可)、連絡先、撮影地を同封してください。
- 封筒に広報誌用写真在中と記入してください。

【応募方法】

- テーマ 季節を感じられる福山の風景
- A4サイズに印刷したものを担当者へ郵送または受付へご提出ください。
- 採用させていただく場合は、事前にご連絡を申し上げます。その後、写真データをメール添付にてお送りいただきます。

【応募にあたって】

- 応募いただいた写真は広報誌以外には使用しません。
- 被写体が人物の場合は、必ず被写体となった人の許可を得て応募してください。
- いただいた写真はお返ししませんのでご了承ください。
- 広報誌をホームページへ掲載する場合があります。

【春号の締切】 2月末まで

朝日受け 金色輝く ススキの穂
病室の 窓から見える 鱗雲
濃紫 ローゼルの実の さやかなり
立冬や ブラウス重ね 退院す
天気雨 ふと見上げると 虹の橋

紅葉 ともこ ほのか ちい 博

俳句&川柳 一句どうぞ

第六回

外来患者さんにアンケートを行いました

2024年8月5日～7日の3日間、外来患者さんを対象に満足度調査を実施いたしました。

期間中、271枚のアンケート用紙を配布し、269名の方に回答していただきました。回収率は、99.2%でした。

外来受診でお疲れのところ、ご協力いただき誠にありがとうございました。

結果を一部ご紹介させていただきます。

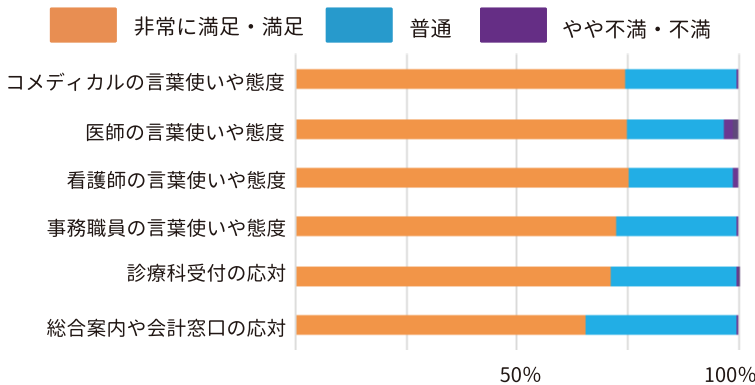
なぜ当院を選びましたか？

- 他施設からの紹介 135
- 医療施設や設備が良いから 78
- 家や通勤先が近いから 56
- その他 良い医師がいるから、家族や知人のすすめ等

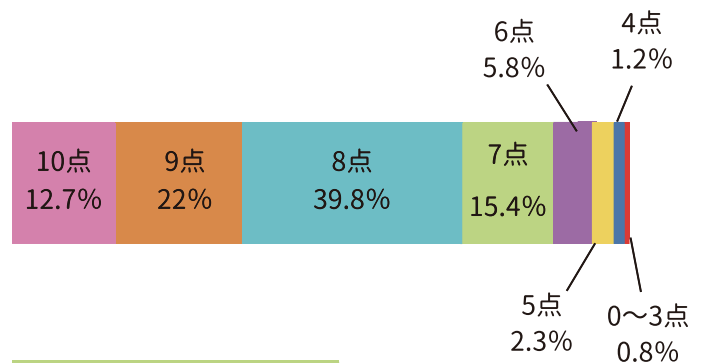
家族・知人に当院を紹介したいと思いますか

- ぜひしたい 36.0%
- まあしたい 59.5%
- あまりしたくない 4.5%

接遇面について



当院を10点満点で評価すると何点ですか



診療面について



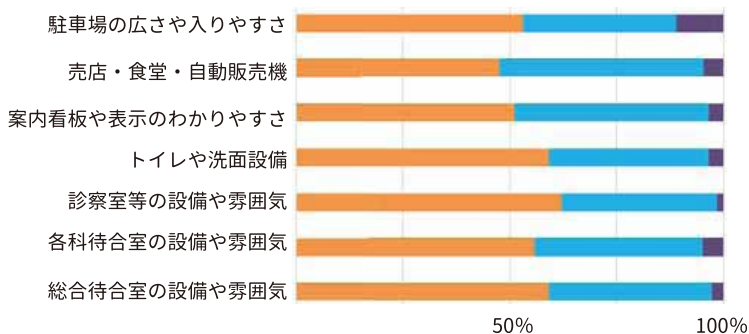
コメント・ご要望など

- 機械化されているので、受付や会計がスムーズで良い。
- 持病があり、妊娠を機にお世話になっています。私自身の診察、出産、子どもの小児科へ安心して通院することができています。
- 診察と人間ドックでお世話になっています。
- 花がきれいに生けてあり季節を感じます。玄関や受付など和みます。
- 駐車場が少し狭く、乗り降りに苦労することがある。
- お手洗いに便座を拭くアルコールを設置してほしい。
- 病状説明が分かりにくい時があります。
- 待ち時間がどれくらいかわかるアプリがあると良い。

時間面について



設備面について



貴重なご意見やご要望につきましては、病院内で共有、検討し、より多くの皆様にご満足いただけるよう改善に取り組んで参ります。

患者サービス推進委員長 喜多村道代

里芋のサラダ



材料 (4人分)

- 里芋 4個(350g)
- ベーコン 40g
- ネギ お好みで

調味料

- 牛乳 大さじ1
- マヨネーズ 大さじ2
- 味噌 小さじ1
- 粉チーズ 小さじ1
- 黒こしょう 少々

栄養量 (1人分)

エネルギー	123kcal
たんぱく質	2.9g
脂質	8.8g
食塩相当量	0.4g

作り方

- 1 ベーコンを細切りにしてフライパンでカリカリに炒めておく。
- 2 里芋は皮のついたまま、沸騰した水で竹串が通るくらいまで茹でる。
- 3 茹で上がったら、温かいうちに皮を剥いて、マッシャーでつぶす。
- 4 3にベーコン、調味料を混ぜる。お好みでネギを散らしたら完成！

里芋は、皮ごと茹でることで簡単に皮を剥くことができます。里芋に含まれる独特のぬめりは、ガラクトサンやムチンという水溶性食物繊維で、高血圧の予防や粘膜を保護する働きがあります。味噌やチーズなどに含まれる乳酸菌と一緒に摂ることで、乳酸菌のエサとなり腸内環境を整えます。

レシピ 調理師 江草友秋 栄養士 原麻衣子

地域連携室だより VOL. 31

医療従事者向け

交流会&オープンカンファレンスを開催しました



新春のお慶びを申し上げます。皆様お健やかに新春をお迎えのことと存じます。昨年は当院の診療につきまして格別のご理解とご協力をいただきありがとうございます。

2024年10月3日に、第14回『青い空の会』を開催でき、地域の医療機関の医師、地域連携室の方々から当院の診療に対するご意見をいただくことができました。交流会の中で当院副院長・呼吸器外科部長の鷲尾一浩より「SURGERY4.0の時代を前にして-暗黙知の可視化と手術支援ロボット-」の演題で講演をさせていただき、大変有意義な会となりました。

また、12月12日には、当院の消化器内科部長の藤原延清より「がん検診 胃と大腸～当科の内視鏡戦略と病診連携～」の演題でオープンカンファレンスを開催させていただきました。検診の変遷や、当院での取り組みなどについて詳しく説明があり、聴講いただいた方にもご好評いただきました。お忙しい中ご参加くださった皆様に感謝申し上げます。

本年も中国中央病院の窓口として、地域の先生方のお力になれるよう、また、患者さんに温かいサポートができるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

地域連携室 村上可容子



地域の医療機関との交流会



オープンカンファレンス

編集後記

あけましておめでとうございます。今年のお正月は、いかがお過ごしになりましたでしょうか。2025年の干支は、乙巳(きのとみ)です。60年周期の干支の中で42番目に位置し、「努力を重ね、物事を安定させていく」という意味合いを持つ年とされています。本年も職員一同、努力を重ねてまいります。
広報委員会

青いそら〈第159号〉

発行 広島県福山市御幸町大字上岩成148-13
公立学校共済組合中国中央病院
TEL.084-970-2121(代) FAX.084-972-8843

発行人 病院長 玄馬 顕一

2025年1月31日発行

<https://www.kouritu-cch.jp>

編集：広報委員 安藤由智 田野智之 荒木恒太 尾形佳子 笹野由希恵 大塚識穂 佐々木美里 栗村朋香 藤井美名 上窪ちなみ 藤井恭子 枝広恵 三浦美保 後藤大 森川薫

